

1 校長挨拶

2 議事

(1)現状報告と(2)質疑応答並びに学校への提言

① 授業アンケート (第 2 回) について (教頭)

- ◎ 第 1 回に比べてわずかに向上しているが、あまり変化がない。
- 面談時に改善を促し、授業を 2 度、3 度とみて良い方向にもっていきたい。

② 学校教育自己診断の結果について (首席)

- ◎ 多くの質問項目で肯定回答が増えているが、学習や進路に関連する項目で保護者と教職員との差が大きい。特に、家庭への連絡や意思疎通の項目が多い。電話や文書などで連絡はしているが、中学校と違い高校は校区が広く家庭訪問が容易ではないことが原因しているのではないかと。学年別の集計があれば分析できると思う。
- 河南高校の先生はよく家庭に連絡していると思う。メール配信もしている。
- ◎ 学校が行っていることを理解されていないので、学校側は保護者にもっと知ってもらう努力をする必要があるのではないかと。
- ◎ 中学校では大事なものは封筒に入れて渡さないと子どもは親に連絡文書を渡してくれない。
- ◎ 大学でも成績、出席状況は郵送で自宅に通知している。

③ 進路途中経過 (進路指導主事)

- 67 期は 1 年次より「総合」の時間などを使って進路指導を行っていたことで、生徒自身がしっかり考えて進路を決めている。
- 傾向としては資格志向が強い。
- e コースや生物医療系の充実が求められる。

④ 生活指導部より (生徒指導主事)

- ◎ 情報モラルの指導が必要。大学でも LINE に関連するトラブルが起こっている。盗難も発生していて、生徒への安全管理をさらに徹底していきたい。
- ◎ 中学校では自転車へのいたずらが発生し、防犯カメラ設置も考えたが、生徒の監視のためのものと考えると抵抗がある。
- ◎ スマホは中学校でも課題になっている。自制が効かず中毒のようになっている。講演などをしてもらって啓発活動をしている。
- ◎ 河南高校は遅刻数が減っているのが凄い。皆勤賞は励みになる。
- ◎ 「中高生 LINE サミット」(旭区役所、他主催)の 2 回目を開くことになった。

⑤ 特別講演会について (首席)

- 北京オリンピック・シンクロナイズドスイミング日本代表の石黒由美子氏による「夢をあきらめない」をテーマに講演をしていただき、好評を得た。

⑥ 初任者から

(国語科) 授業では発問にしっかり考えて答えてくれている。部活動でも積極的に指導を仰ごうとしてくれているが、気持ちが優しく競った試合を落としてしまっている。

(数学科) 生徒一人一人が暖かく、行事に対して熱い。生徒のお陰で授業が成り立っていて、生徒同士が助け合っている。

- ◎ 「教えることは学ぶこと。」次の初任者が入ってくると、言ってもらえる側から言う側になる。競った試合で勝てるよう工夫してください。
- ◎ 自分の全人格を子どもたちにぶつけてもらいたい。テクニクに走るもののないような先生であって欲しい。自分が努めている学校を「この学校」という言い方をしないようにして欲しい。

3 校長謝辞